

フラワーセンターニュース

奇妙な多肉植物'シンニンギア'の新種

日本初開花

'シンニンギア'属 (Sinningia) は、ブラジルに約60種類が自生しています。茎の基部にシクラメンのような球根を形成します。その形状から多肉植物として取り扱われています。

Sinningia sp 'Itaguassu' シンニンギア 'イタグアスー'

ブラジル エスピリト・サント (リオデジャネイロから北約500km) イタグアスー地区で2006年に発見された未命名の新種。標高700m 滝の近くの垂直な岩に自生している。

2015年職員がカリフォルニアで行われたブラジルの植物研究家 Mauro Peixoto 氏の講演を聞いたことがきっかけで、The Gesneriad Society (国際ゲスネリア協会) より2015年7月にタネを数粒入手し、発芽した2株を栽培し続けた。そのうちの1株が花茎を伸ばし2018年3月25日に初開花した。

茎の長さは10cm。(ただし株が充実すれば草丈はさらに伸びると思われる) 表面は長さ5mmほどの白毛で覆われる。茎の先端に緑色で長さ4cm程度の葉を数枚つける。葉の裏も白い繊毛で覆われる。

茎の先端よりやや下部に小さな葉を数枚つけ、その葉えきから横に長い花茎(20cm程度)を伸ばし、数輪の花をつける。

花は筒状で、長さ4cm。先端が6枚にわかれ、筒の外側は赤茶色、中心は黄色で外へ広がる。

珍しいポイント

① 茎に対し花茎が横に伸びる草姿が特徴的。

(横に伸びて花が咲くのは垂直の岩に自生しているその自生地環境のためと思われる)

② 赤茶色と黄色の2色咲きはシンニンギアの種類の中でも類を見ない

4月20日頃まで大温室ゲスネリア室にて展示。



シンニンギア 'イタグアスー'の花



草姿